

令和 5 年度 自己評価・学校関係者評価 結果公表シート

香芝市立二上幼稚園

1. 本園の教育目標

- 法遵守のもと、二上幼稚園の地域・園児の実態を踏まえ、家庭・地域と連携を大切にしながら、様々な体験を通して健全な心身の基礎をつくり、明るく心豊かでたくましく生きる力をもった幼児の育成をはかる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 幼児一人一人の特性や内面をよく理解し、園児の調和的発達を促すための指導に取り組む。
- 園内外の環境を見直し、積極的に活用することで、心揺さぶる体験を教師や友達と共有し、豊かな心情の育成に努める。
- 基本的な生活習慣及び健康な生活に必要な態度や習慣の形成に努め、元気に挨拶のできる幼児の育成を目指す。
- 地域の教育力を活かした教育活動に取り組み、家庭や地域との連携を深めながら教育の推進に努める。
- 支援の必要な幼児の実態を把握し、自立と社会参加の基礎となる力を育てる。
- 保幼小の円滑な接続・連携を目指し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識しながら学びに向かう生きる力の基礎を培う。

3. 評価項目・評価・取組と達成状況

評価項目	評価	取組と達成状況
(1) 教育目標及び指導方針	A	<p>教育目標をよく知ってもらえるよう園舎に提示し知らせるように努めてきた。また、園での様子や保育内容について保護者に分かりやすく発信するため、各学年でドキュメンテーションを作成して靴箱前に掲示したり、香芝市公式ホームページ(月に1回程度を目標)に掲載したりしてきた。</p> <p>活動や遊びの内容、行事について、できるだけ保護者の方に知らせ、園生活に安心できるように努めてきた。また、今年度はファームデーとして、保護者の方に園の様子を知ってもらえるよう、保育参加の時間も短時間であるが定期的を実施した。</p> <p>今後も更に知らせ方を工夫しながら、保護者や地域へ園の様子を発信できるように継続していきたい。また、職員一人一人が教育目標「一人一人が輝き 活力のある幼稚園」を熟知し、協力し特色ある幼稚園となるよう取組を進めていけるように推進していきたい。</p>
(2) 幼児理解	A	<p>幼児のありのままの姿を受け止め、幼児一人一人に丁寧な関わりをすることを大切に職員間で共通理解し取り組んできた。また、日々の保育の振り返りを基に、多面的な関わりや見方、援助方法等についても職員間で話し合いを重ね、互いの幼児の見取り方が支援や幼児の内面理解にもつなげられるように取り組んできた。豊かな心を育めるように今後も努めていきたい。</p>
(3) 環境の見直し及び環境構成	A	<p>地域力を大切にし、保護者やコミュニティの協力を得ながら、園児が安心安全で自己発揮できる環境づくりを工夫し見直しできるように努めてきた。また、幼児一人一人が、身近な環境に触れ安心して自己発揮し、しなやかな心を育めるように考え環境の見直しを行い整備してきた。その中で、今年度、幼稚園横のキラキラパークの環境整備のひとつとして「ファームデー」を企画し、保護者の方への啓発とともに保育参加として幼児と一緒に草引きや野菜の苗植え、収穫などの活動体験を実施した。活動に参加された保護者の方からは「キラキラパークの楽しさや子どもたちの様子がよくわかりとても良かった」という声が聞かれた。計画的に進みにくい面もあったため、今年度は綿密に計画を立て取り組んでいきたい。</p> <p>職員が常に活動主体が幼児であることを認識し共通理解に努め、身近な環境に関わることで、心を弾ませながら遊びが展開できる環境を整え、必要に応じての見直しを行い、保育を進めていきたい。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価・結果

- 幼児期に豊かな体験を通して、生きる力の基礎を育むことが求められている。今年度、教育目標を達成するために研究テーマを「楽しいがいっぱい!!心わくわく!トキメキひらめく保育を目指して～さまざまな人とのつながりの中で互いを認め合い 安心して自己表出できるための援助の在り方について～」とし研究を進めてきた。少人数の良さを活かして、つながりを大切にすることを目的に今年度の研究主題を設定した。職員間で子どもの見取りについて話し合いを何度も重ね、丁寧な関わりを心掛け、幼児一人一人の豊かな心の育成を推進するために様々な人との関わりを大切にすることを推進し援助を心掛けてきた。
- 日々保育を振り返り、資質向上に努めながら、「幼児理解」「援助の在り方」に視点をおき、できるだけ職員で話し合う機会をもった。話し合うことの大切さを痛感する反面、少人数がゆえに見えてくる幼児一人一人の特性を伸ばすための援助には職員数が少ない本園として、通常保育や預かり保育などの保育に携わることや勤務時間形態の違いから、職員間で話し合う時間がもてにくかった。このことを鑑みて取組を進めてきているが幼児の「やってみよう」が実現できるような環境や援助の工夫、職員連携の工夫が大切であると強く感じた。
- 園児や保護者の思いに寄り添い、安心して園生活が過ごせることを念頭におき、取り組んできた。保護者へのアンケートの中で、「子育てについての悩みを幼稚園に相談しようと思えますか」の質問に「相談する」「内容によっては相談する」という答えが多数あったことは保護者とコミュニケーションが取れており安心して通園できることにつながっている。今後も日々の声掛けや関わりをこれまで以上に大切にしていきたいと考える。
- 地域の方々との関わりが密で、コミュニティとしての協力体制ができている。保護者や地域の方々から幼児の園生活が豊かになるよう支援して下さっていることや日頃より多方面にご協力いただいていることから、地域の中で愛されている幼稚園であると実感できた。今後も子どもたちの豊かな成長を育み、保護者が安心して子育て支援を担う開かれた幼稚園を目指していけるよう努めていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

評価項目	具体的な取組方法
安全管理	幼児と共に定期的に、火災・地震等を想定していろいろな時間帯に避難訓練を実施してきた。また、不審者等の対策を考え今年度は、園職員の研修として、不審者への対応や園児を安全に避難させる方法等を学ぶ機会を設けた。職員で危険箇所や不審者侵入時の対処方法や役割について考える機会をもった。日頃より常に危機感をもち、職員全員が対応できるよう今後も危機管理に取り組んでいきたい。
保・幼・小・中の円滑な連携及び接続	様々な人との関わりの中で、楽しさや心地よさを味わわせ、コミュニケーション力を高める必要がある。感じたこと・考えたことなど自分なりの表現で伝え、相手の思いにも気づき話をしっかり聞く姿勢を培うことが大切だと思われる。 保幼小の連携も地域としては確立されている。このことを活かして更に職員同士の円滑な接続・連携ができるように努めていきたい。
働き方改革	職員が健康的に働ける環境を整えることで、仕事へのモチベーションが上がり、幼児への対応にもゆとりがもてると考える。また、仕事内容が偏らないよう仕事量のバランスや行事活動や保育の見直しを考え、業務の精選を考えていくことが必要であり取り組んでいけるようにしていきたい。

6. 学校関係者評価委員会からの意見と今後の改善について

- 学校関係者評価委員会を年3回実施し、園経営について理解を得る機会としている。その中で保育の様子を見て意見交流をしながら評価をしていただいている。
今年度は少しずつコロナ禍以前の活動形態に戻しながら工夫して、七夕まつり会や運動会、生活発表会、作品展等を見ていただくことができた。昨年度の香芝市教育委員会指定研究発表会に引き続き、園の取り組みや研究について継続して園児の様子や園児への関わり方については、職員一人一人がきめ細やかで丁寧に行っていると評価をいただいた。
- 環境の見直しの一つとして園庭横の農園を「キラキラパーク」とし、園児が主体的に遊びを展開できる場所とした。友達や先生と一緒に考えたり、相談したりしながら進めている姿が見られ一人一人の成長につながった。今後も園児の思いが実現できるよう職員が幼児理解に努め、取組の継続をしていきたい。
- 子どもたちがのびのびと自発的に遊びや行事に取り組む姿が印象的で子どもたちにとって、とても良い環境を作ってくださっているのが伝わってきたという嬉しい言葉をいただいた。更に、幼稚園は「保護者の要望に耳を傾け、すぐに改善・検討を進めていただき、保護者に寄り添う気持ちが表れて有難かった」というご意見もいただいた。今後も保護者の思いをしっかり受け止め、園運営に活かしていけるように努めていきたい。
- 地域の方の協力で地域の方々や園児や幼稚園がつながりを持ち、今年度も活動できたことは、とても嬉しく思い、感謝の気持ちでいっぱいである。
- 今後も職員が力を合わせ幼児がさまざまな人とのつながりの中で互いを認め合い、安心して自己表出できるための環境づくりに努め、地域に愛される幼稚園として努力していきたい。